# 医療機器プログラムに関する FAQ

ボーンナビ BSI(V2.2.0) FAQ	2
eZIS ニューロ(V1.1.1,V1.2.0)FAQ	23
3DSRT ニューロ(V1.0.6) FAQ	31
Amygo ニューロ(V1.0.0,V1.0.1)FAQ	34
AMYclz ニューロ(V1.0.0,V1.0.1)FAQ	37
カーディオレポ(V1.2.0) FAQ	41
smartMIBG ハート (V3.1.0,V3.1.1) FAQ	43
LANC@T (V2.9.x.x) FAQ	51
(New) 脆弱性に関する情報	57

# **PDRファーマ株式会社**

本件についてご不明な点は、担当 MR または製品情報センターまでお問い合わせください。 (電話:0120-383-624 受付時間:9:00~17:00 (土曜・日曜・祝日・当社休業日を除く)) ボーンナビ BSI

2022 年 4 月~2025 年 5 月分 2025 年 5 月更新

# ボーンナビ BSI(V2.2.0) FAQ

Q01 J	V2.2.0 ヘバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エクスポート機能" を使 用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。
Q02	ボーンナビ BSIの解析中にマスクボタンを押下しても反応しない。5
Q03	前バージョン(V2.1.7)のセッションファイルが読み込めない。
Q04	V2.1.7とV2.2.0のレポートレイアウトの変更について詳細を知りたい。7
Q05	レポート内の「BSI(%)」の文字が切れてしまう。12
Q06 f	ボーンナビ BSI をバージョンアップしたところ、「Bone session file load operation ailed.」と表示され解析できない。13
Q07 	ボーンナビ BSI 解析後に「An error occurred while saving SC DICOM」が発生しレポー 、が保存できない。14
Q08	レポートの患者名の DICOM ヘッダ情報が文字化けする。17
Q09	3 検出器ガンマカメラ GCA-9300R の骨シンチ画像は解析できますか。19
Q10	セッションファイルに ROI 情報が含まれている場合、最新の検査データに ROI が設定 されていないとレポートが保存されない。20

2022 年 4 月~2025 年 5 月分 2025 年 5 月更新

Q01 V2.2.0 ヘバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エクスポート機能" を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。

A.01

DICOM データの患者名に「^」が使用されている場合(例 "MYOUJI^NAMAE")、レポート を LANC@T からエクスポートし共有フォルダ経由でインポートできない処理機がありま す。この現象は、「^」記号が「空白」に変換され保存フォルダ/ファイル名に「空白」が入る ためです (本資料の「LANC@T FAQ」と同じ現象についての説明です)。

#### <u>方法1-3のいずれかで対応をお願いします。</u>

方法1) LANC@T のエクスポートルールを使用する場合、フォルダ名/ファイル名に は**\$ptid\$等の空白のない情報**を使用してください。

エクスボート設定	
エクスポート設定	
□ エクスポート時に匿名	3化する 項目設定
□ ログファイルを作成す	3
デフォルトのエクスポート・	先
D:¥temp¥export	
ロ エクスポートルールを	使用する
54703	
ファイル名	
\$ptid\$	
命名ルール(下記の情報	服が使用できます)
PatientsName	: \$ptname\$
PatientsID	: \$ptica} : \$ptsex\$
PatientsAge	: \$ptage\$
StudyDescription	: \$studydesco
StudyTime SeriesDeparintian	: \$studytime\$
SeriesDate	: \$seriesdate\$
SeriesTime	: \$seriestime\$ \$modelity\$
would inty	, princialityp
	OK キャンセル

2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

方法2) エクスポート時もしくはエクスポート後に、保存フォルダ名/ファイル名から空 白を削除して下さい。

方法3) 共有フォルダを介さず直接送信する方法(DICOM 通信)をご検討ください。

※この現象に対応するため、空白をアンダーバー「\_」に変換する機能を追加した対応版 LANC@T をご用意しております。当社担当 MR までお問い合わせください。

Q02 ボーンナビ BSIの解析中にマスクボタンを押下しても反応しない。

A.02

- Windows の OS と LANC@T のバージョンをそれぞれご確認ください。
- LANC@T のバージョンが V2.9.1.0 以上である必要がありますので、LANC@T のバ ージョンをご確認ください。
- V2.2.0 の動作保証 OS は Windows10と11です。それ以下の OS で動作する場合 もありますが、Windows VISTA、XP では新しいマスク処理に対応しておらず、以下 のエラーメッセージが表示され動作しません。ご了承ください。

BN_Mask.exe - エントリポイントが見つかりません
プロシージャ エントリ ポイント K32GetModuleFileNameExWがダイナミックリンクライブラリ KERNEL32.DLLから見つかりませんでした
OK

Q03 前バージョン(V2.1.7)のセッションファイルが読み込めない。 (セッションファイルとは、「解析中のコメント」、「ホットスポットのリスク(赤/青 判定)」等 の情報が保存されたファイルです。)

A.03

方法1-2のいずれかで対応をお願いします。

方法1) V2.1.7 と V2.2.0 ではセッションファイルの構造が異なるため、互換性がございません。今までのセッション情報を活用する場合は V2.1.7 を引き続きご利用ください。

下図のエラーメッセージについては OK ボタンを押す事で、セッション情報がないもの として解析されます。



方法2) V2.1.7 のセッションファイルを引き続きご利用される場合はお手数ですが、過 去データのレポートを参考に V2.2.0 で解析し、改めてセッションファイルを保存してく ださい。

V2.2.0 をインストールする前に、V2.1.7 をアンインストールして頂く必要がありますが、アンインストール後に一部のフォルダ/ファイルが残ってしまいますので、<u>以下の"BONENAVI\_BSI"フォルダ</u> <u>を削除してからインストールしてください。</u>

(既定のインストール先:C:¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI\_BSI)

なお、V2.1.7 に戻して使用する場合を考え、上記の BONENAVI\_BSI フォルダ内にある" <u>session</u>" フォルダは、削除する前にバックアップ(コピー)頂くことをお勧め致します。

なお、本資料の p13 にも関連情報を記載しています。

Q04 V2.1.7とV2.2.0のレポートレイアウトの変更について詳細を知りたい。

A.04

バージョンアップに伴い、下記の通りレポートのレイアウトを変更しております。ご了承 ください。

全レポート共通

画像右下に使用しているカラーマップ名を表示しました (図 1\*)。

Summary レポート(図 1)

CADx レポートの名称を Summary レポートに変更しました。

∠BSI を追加し、レポートテキストを画像下部に移動しました。複数解析時は、例 数によりコメント欄が小さくなることがあります。また、BSIとHsnのグラフは1例(検 査)でも常に表示するように変更しました。



(図1)

① Images-レポート

● V2.1.7 は複数例解析時の出力レポートは正面像/背面像それぞれ 1 枚でしたが、V2.2.0 では 6 例以上の場合、画像を出来るだけ大きく表示/印刷されるようにそれぞれ 2 枚で出力されるように、仕様を変更しました。

 >5 例までは、V2.1.7 と V2.2.0 で変更はありません。(図2)
 >6 例以上の場合、画像が小さくなってしまうため、次ページ図 3 のよう に 2 枚に分割しました。

(5 例の場合) V2.1.7 と V2.2.0 で変更はありません。



図2(例として正面像のみのレポート)

#### ▶(6 例以上の場合)

全身画像を出来るだけ大きく表示する為、6例では(1枚目、2枚目)が(3画像,3画像)に2分割されます。7例以上では7例(4,3)、8例(4,4)、9例(5,4)、10例(5,5)となります。



図3 (例として正面像のみのレポート)

- ② Images-Info レポート
  - ●レイヤー「第2スケールとホットスポット」を選択した場合(V2.2.0で新規追加レイヤー、図4)、「第2スケール」のレポートと「ホットスポット」のレポートが作成されます(図5)。



(図4)

(2 例の場合)



第2スケール



ホットスポット

(図5)

レイヤー「第 2 スケールとセグメントとホットスポット」を選択した場合(V2.2.0 で 新規追加レイヤー、図6)も同様に、「第 2 スケール」のレポートと「セグメントと ホットスポット」のレポートが作成されます。



(図 6)

「Images-Info レポート」でも、6 例以上の場合、③「Images レポート」と同様に 2 枚に分割されます。6 例以上では、"第 2 スケール"で 4 枚のレポート(正面像2 枚、背面像2枚)、"ホットスポット(または、セグメントとホットスポット)" で 4 枚の レポート(正面像 2 枚、背面像 2 枚)が作成されます(図 7)。

(6 例の場合:正面像の表示)



第2スケール



セグメントとホット

(図7)

Q05 レポート内の「BSI(%)」の文字が切れてしまう。

A.05

BSI のグラフについて、縦軸の値によって文字が切れてしまうケースがあります。ご迷惑 をお掛けいたしますがご了承ください。



Q06 ボーンナビ BSI をバージョンアップしたところ、「Bone session file load operation failed.」と表示され解析できない。

A.06

旧バージョンのセッションファイルがフォルダ内に残っていると本エラーが表示されます。

	Bone session file load operation failed.
Ŀ	Details
	ОК

また、上記のエラーメッセージダイアログの OK ボタンを押して先に進んだ場合 セッション情報がないものとして解析された結果が出力されます。

旧バージョンのセッションファイルは、新しいバージョンのプログラムでは対応していません。削除してください(本資料の p6 に関連情報を記載しています)。 (既定のインストール先:C:¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI\_BSI¥session)

なお、V2.1.7 に戻して使用する場合を考え、BONENAVI\_BSI フォルダ内にあるセッション フォルダは、削除する前にバックアップ(コピー)頂くことをお勧め致します。 (既定のインストール先: C:¥FRI¥LANC@Tprog¥BONENAVI\_BSI) Q07 ボーンナビ BSI 解析後に「An error occurred while saving SC DICOM」が発生しレ ポートが保存できない。

A.07

入力データに病院名がセットされておらず、レジストリにセットされている病院名に「かな 漢字」が使用されている場合にエラーが発生します。



図 2: PDR ソフトのレジストリ情報

(※) PDR 製プログラムの病院名が保存されている場所(HOSPITAL\_NAME)のレジストリ画面



特定の文字コードでエラーが発生します。以下の漢字等で使用した場合、発生が確認されて います。

例:「十」、「圭」、「申」、「貼」、「能」、「表」、「予」、「禄」

以下の方法1で対応可能です。

方法1が利用できない場合は、方法2のでも変更可能です。

方法1) eZIS ニューロや smartMIBG ハート等、他の PDR 製認証プログラム上で病院名を<u>半角英数字</u>に変更してください(下図の赤枠内を<u>半角英数字</u>に変更し設定保存してください)。

2022 年 4 月~2025 年 5 月分 2025 年 5 月更新

eZIS	ニュー	ロの	ビュー	ワ	画面
------	-----	----	-----	---	----

C:¥FRI¥UserData¥eZIS¥eZIS_20011018_eZIS¥mask_snt_NM_Z-GLOB.img	– 🗆 X
アナイル(): 編集(E) 表示(Y) Z-SCORE(Z) specific VOI(S) Help         CT/MRI         0       Lower         0       Lower         For CT       Fix Color         Color Map(CT/MRD):       Grayscale         ▼       Potential         Color Map(CT/MRD):       Grayscale         ▼       Potential         Color Map(CT/MRD):       Grayscale         ▼       Potential         Color Map(CT/MRD):       Color Map(CT/MRD):         ●       Normal-Petient © Two Tail Mew         ○       皮奥特異領域解析()	Fusion 0 Lower 100 %
Color Map(SPECT): Scintipac-7000 マ C Patient-Normal 病院名 PDRファーマ株式会社 ID: eZIS 名前: Test Data	<sup>SVA 網</sup> 半角英数字に変更 (例)PDR
日付: 2001/10/18 <i>eZIS</i> <i>Version 1.1.1.0</i> 年齢: 77 Specific VOI analysis	
NDB[ECD70y-(female)DB]Reference[GLOBAL]Template[ECD2_SPM2]Setting[Setting2] 添付のMRIを使用しています	]0]kit+∞ci∿®]

smartMIBG ハートの設定画面

🌞 Settings	- 🗆 X
全般 病院名 アDRファーマ株式会社 カラーマップ #Default 「 「 Rev	半角英数字に変更 (例)PDR
□ リアルタイムモードを有効にする □ 起動時にグリッド線を表示する	ROIの色 III-clWhite マ グリッド線の色 II-clWhite マ
補正 Washout Rate 補正有無 「バックグラウンド補正(+)、減衰補正(-) ▼ マ H/Mの補正をする TEST  TEST2	レポート 背景色 ・白 ・黒 DICOM保存様式 ・縦 ・横 で 表示する Early 19 以上 広医学会(LE) Delayed 19 以上 ここに入力してください Washout Rate ** 以下 DICOM情報 Series Description SmartMEG[SC] Series Number
	Save Cancel

- ※1 当社のプログラムでは、この病院名の設定内容を共通で使用しています。変更した内容は、 他のプログラムでも反映されますので、ご注意ください。
- ※2 また、病院名を設定・変更できるプログラムには、脳画像解析「eZIS ニューロ、3DSRT ニュー ロ、Amygo ニューロ」、心臓解析「smartMIBG ハート」があります。

方法2) レジストリエディタで病院名を半角英数字に変更してください。

C:¥Windows¥regedit.exe をダブルクリックしてレジストリエディタを起動します。

### (64bit PC の場合) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥WOW6432Node¥FRI¥COMMON を (32bit PC の場合) HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥¥FRI¥COMMON フォルダを開きます。

HOSPITAL\_NAME の項目をダブルクリックし、値のデータを<u>半角英数字</u>に変更し OK ボタンを押して下さい。

#### ご不明な場合は当社担当 MR までお問い合わせください。



#### 図 6:レジストリエディタ

文字列の編集	×	
値の名前( <u>N</u> ):		
HOSPITAL_NAME		
値のデータ( <u>V</u> ):	半角英数字に変更	
PDRファーマ株式会社		
	OK キャンセル	

Q08 レポートの患者名の DICOM ヘッダ情報が文字化けする。

A.08

患者名に「かな漢字」が入っている為に文字化けが起きています。

解析前に LANC@T の Edit 機能で患者名を次ページ(患者名の編集)の手順に従って文字化け部分を削除してください。

なお、初めて患者名を編集する前に、一度だけ LANC@T の設定を変更する必要があり ます。以下の(前処理)の手順を実施してください。

(前処理)

注意:LANC@Tを終了した状態で行ってください。

LANC@T のインストール先フォルダ(既定のインストール先:C:¥FRI¥LANC@T)を開き、 LANCAT\_Setup.xmlを<u>メモ帳</u>等で開きます。



15 行目にある<UIDLevel>1</UIDLevel>の1を3に書き換え、上書き保存します。

※UID レベルを1から3に変更する事で名前を変更しても同じ UID で保存されます。

#### (患者名の編集)

LANC@T 上で該当データを選択し、Edit ボタンを押し下図のように、患者名の「かな漢字 部分」を削除して Save してください。

参 <u>所</u> Loc	ぽ先: al ✓		送信	転	送	Patient Stud	ly Series	Today Today:Toda	Wee y	k Month		
	D	Name	Age	Sex	odali	Study	Se	eries		Date	Time	ImageID
	04608615	SEI^MEI=姓^名=		M	NM	Whole Body Bo	BONENAVI			2022/08/23	09:55:30	[Summary]
	04608615	SEI^MEI=姓^名=		M	NM	Whole Body Bo	BONENAVI			2022/08/23	09:55:30	[AntPos]
	04608615	SEI^MEI=姓^名=		M	NM	Whole Body Bo	BONENAVI			2022/08/23	09:55:30	[Info_AntPos]
1	04608615	SEI^MEI=姓^名=		M	NM	Whole Body Bo	WHOLE BODY	/		2011/05/18	14:26:38	WHOLE BODY
<												3
Fra	ne		[0008,	1050]	Perfo	ormingPhysician	sName					-
$\triangleright$	< >		[0008,	1060]	Name	eOfPhysiciansRe	adingStudy					
	1/2	-	[0008,	1070]	] Oper	atorsName						
	Max:971	2009	[0008,	1080]	Admi	ttingDiagnosesD	escription					
	971	3 6	[0010,	0010]	Patie	entsName 💥		SEI^MEI= 🗆:	\$B@	+0(B^0\$BL>	·□(B=□)I	]\$B%;%\$□(B^[
			[0010,	0020]	Patie	entsD X		04608615				
			[0010,	0030]	Birth	Date 💥		19310117				
			[0010,	0032]	Patie	entsBirthTime						
			[0010,	0040]	Patie	entsSex 💥		м				
	<b>□</b> %		[0010,	1000]	) Othe	rPatient⊡s						
			[0010,	1001]	) Othe	rPatientNames						
			[0010,	1010]	Patie	entsAge 💥						
			[0010,	2160]	Ethn	icGroup						
			[0010,	2180]	) Occu	upation						
	0		[0010,	2180	] Addit	tionalPatientHist	ory					
	Min:0		[0010,	4000]	Patie	entComments						
Rain	bow 🗸		<									~
												Edit

※Edit 機能 LANC@T のヘッダ情報	欄はかな漢字が文字化けされ表示されない
[0008,1070] OperatorsName	
[0008,1080] AdmittingDiagnosesDescription	
[0010,0010] PatientsName ※	SEI^ME <mark>I=+\$B@++(B^+\$BL&gt;+(B=+)I+\$B%;%\$+(B^+\$B%a%\$+(B</mark>
[0010,0020] PatientsID ※	04608615
[0010,0030] BirthDate ※	19310117
	1
[0008,1070] OperatorsName	
[0008,1080] AdmittingDiagnosesDescription	
[0010,0010] PatientsName ※	SEÎMEI
[0010,0020] PatientsID ※	04608615
[0010,0030] BirthDate ※	19310117
※不要部分の削除最初の「=」より	- り後ろを削除して Save してください。

Q09 3 検出器ガンマカメラ GCA-9300R の骨シンチ画像は解析できますか。 (GCA-9300R:キヤノンメディカルシステムズ(株)製の3検出器ガンマカメラ)

A.09

"GCA-9300R"から出力された画像データは、以下に記載する手順で LANC@T に取り込み、BONENAVI (V2.2.0)で解析することができます。

なお、データ収集の際は、前面像(ANT)と後面像(POST)を別々に撮像してください。

- ケース1)" GCA-9300R v2.2 以降"の場合
  - 標準搭載されている「検出器分離」というアプリケーションを使用してデータを 出力してください。
  - ② 上記方法で出力したデータを、[WB\_LANC@T.exe] を介して LANC@T へ取り込み、BONENAVI で解析してください(BONENAVI 取扱説明書 p12「4.1 データを取り込む」参照)。

ケース2)「検出器分離」アプリケーション未対応の場合 BONENAVI で設定を変更して頂くことで、解析が可能になります。設定に関する詳細 な説明書をご用意しています。当社担当 MR までお問い合わせください。

なお、キヤノンメディカルシステムズ(株)様より、バージョンアップキットがオプションで 用意され、このオプションを追加することで「検出器分離」アプリケーションに対応可能 のようです。詳細はキヤノンメディカルシステムズ(株)様にお問い合わせください。

2025 年 5 月更新

Q10 セッションファイルに ROI 情報が含まれている場合、最新の検査データに ROI が 設定されていないとレポートが保存されない。

A.10

【現象】

最新の検査データに ROI が設定されていないためです。

(過去データに ROI が設定されているが、最新データに ROI が設定されてない。)



※v2.1.7 では、エラー画面が表示されレポートタブが表示できません。

【対策】

以下のいずれかの対応を行うことで、レポートを保存できます

(ア) セッションファイルによって読み込まれた ROI 情報を削除(図 1)し、新たに ROI を設定(図 2)する。

27	1	





2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

 (イ) セッションファイルを読み込まずに、新しいセッションで解析する。(解析時に図 3 が表示されるので「新しいセッション」ボタンを押してください。)
 ※過去データのリスク分類を変更している場合は、変更点が反映されないことになるので注意が必要です。可能な限り上記(ア)での対応をお願い致します。

図 3:



# eZIS ニューロ (V1.1.1,V1.2.0) FAQ

Q11 eZIS ニューロ(v1.1.1)においてレポートを印刷すると一部画像が消えて印刷される事がある。	24
Q12 eZIS ニューロ(v1.2.0)の Invert モードで解析後に SVA や Guideline レポートが選択て	ే
きる状態になっており不正確なレポートが表示されてしまう。	25
Q.13 eZIS_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、A	\4
縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。	27
Q.14 eZIS_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、A	4
縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。	28
Q15 eZIS_viewer(v1.2.0)で report1 だけ印刷しても report2 も印刷される。	30

2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

Q11 eZIS ニューロ(v1.1.1)においてレポートを印刷すると一部画像が消えて印刷される 事がある。

(PC上では正常に表示されている。印刷時のみの現象)

A11

レポートを直接印刷する時の不具合です。JPEG 等で保存したレポートを印刷することで、 対応可能です。

2022年4月~2025年5月分

2025年5月更新

Q12 eZIS ニューロ(v1.2.0)の Invert モードで解析後に SVA や Guideline レポートが選択 できる状態になっており不正確なレポートが表示されてしまう。

> 【現象】eZIS ニューロ (v1.2.0)において Invert モードで解析後に、本来は SVA や Guideline レポート等のプレビューが表示できないところ、メニューがアク ティブ状態になり不適切な結果が表示されてしまいます(図 1)(図 4)。一度プレ ビューを表示すると、メニューがグレーアウトして再度の表示ができなくなり正 常の状態に戻ります(図 2)。なお、本現象について ezis\_viewer.exe を単独で起 動した場合は、本来の仕様通り、プレビューメニューは非アクティブとなります

(図2)。

<mark>ファイル(F)</mark> 編集(E) 表示(V) Z-SCORE(Z)	) Help	ファイル(F) 編集(E) 表示(V) Z-S/	CORE(Z) Help
3D解説用ツールの作成	Z-Score Level	3D解説用ツールの作成	
レポート&QC >	6	レポート&QC	
設定 >	1.0	設定	
レポートのプレビュー(v) → フルスクリーン(F) Color Map(CT/MRI): IGrayscate Color Map(Z-Score): Scintipac-7000 Color Map(SPECT): Scintipac-7000 解析者: PDR MEMO	eZIS [ (典型例/解説)なし [ 典型例/解説)あり [ 脳表3D表示 ] SVA グラフ [ SVA 解説付き [ SPECT Zスコア ] Guidelineレポート [ Standard VOIレポート ]	レポートのプレビュー(v) フルスクリーン(F) Color Map(CT/MRI):  Grayscale Color Map(Z-Score):  Scintipac=700 Color Map(SPECT):  Scintipac=700 解析者:  PDR MEMO	<ul> <li>eZIS         <ul> <li>(典型例/解説)なし</li> <li>(典型例/解説)あり</li> <li>(明型例/解説)あり</li> <li>(明型の)</li> <li>(明型の)</li> <li>(日本国内)</li> <li< th=""></li<></ul></li></ul>

(図1 問題の現象)

(図 2 Invert モード時の正常のプレビューメニュー)

解析直後に図 1 の赤枠内メニューを選択した場合 "エラーが発生しました。リトライし て下さい。"、と表示されます(図3)。"OK"をクリックするとレポート上に不適切な SVA の VOI が表示されます(図4)。

eZIS runtime error X	前頭葉・側頭頭	<b>薬 下側頭回・側</b> 類	<b>菠葉 左前頭葉</b>	• 🚍
エラーが発生しました。リトライしてください。		R-lateral	Posterior	L-medial
ОК				P A
(図 3 エラー表示)		A	R	A P

(図4 不適切な SVA-VOI)

A.12

Invert 解析を行った場合、メニューからの SVA や Guideline レポート等の VOI を使用した レポートのプレビューは選択しないようにお願いします。

SVA レポートを表示する場合、Z-SCORE→Change Count Norm メニューから【MNI GLOB】を選択してからレポートのプレビューをしてください(図 5)。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) Z	-SCORE(Z) VOI設定(S) Help	
CT/MRI 100 - 0	Change Count Norm(C) > Upper , , , , Lower CT CT	MNI GLOB     MNI CBL     Invert GLOB     Invert CBL
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) Z-SCORE(Z)         VOI設定(S) Hel;           -CT/MRI	6         Upper         Fusion         Extent Threshold           10         Lower	0 SPECT Fusion 0 Lower 100 %
Color Map(CT/MR): Grayscale マ び Overlay び V Color Map(Z-Score): Scintipac-7000 マ ( Normal-Patien Color Map(SPECT): Scintipac-7000 マ ( Patient-Norma 解析者: マ 天	Mhite Background t ⊂ Two Tail View al ⊂ Auto Two Tail <b>药院名:</b> [PDR	レポート Guideline Standard VOI 疾患特異領域解析(SVA) SVA グラフ SVA 解説付き SPECT Zスコア
MEMO	ID: eZIS 名前: Test Data 日付: 2004/_9/_7 <i>eZIS</i> <i>Version 1.2.0.0</i> 在脸: 2004_9/_7 Specific VII applyin	- 血流低下パターン - 脳表面像 [典型例/解説]なし [典型例/解説]あり 脳表3D表示
NDB[ECD88y-(male)DB]Reference[GLOBAL]Template[ Phantom[Reference:sn 策速大ファントム_SPM2.ime][User 本人のCT/MRIを使用しています	++ BP - Joo 性別: M ▼ ECD2.SPM2]Settine[ECD推奨] sn_testSPM2.ime]	<ul> <li>■ 客化しない</li> <li>○ 匿名化しない</li> <li>○ 表示のみ匿名化</li> <li>○ 表示とヘッダの匿名化</li> <li>→括保存8印刷</li> </ul>

(図5 コントロールパネル)

赤枠内(図 5)のレポートが選択可能になり、SVAの VOIも正しく表示されます。(図 6)



(図 6 正しい SVA-VOI)

2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

Q.13 eZIS\_viewer(v1.2.0)でGuideline レポート・スタンダードVOIレポートを印刷すると、 A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。

(プリンターの設定で印刷の向きを縦・横で切り替えても、印刷向きは縦に固定される。)

A.13

レポートを直接印刷する時の不具合です。JPEG 等で保存したレポートを印刷することで 対応可能です。

2025 年 5 月更新

Q.14 eZIS\_viewer(v1.2.0)で Guideline レポート・スタンダード VOI レポートを印刷すると、 A4 縦の用紙に、横表示で右半分が切れて印刷される。

A14

DICOM-SC や JPEG 等で保存したレポートを印刷することで対応可能です。

DICOM-SC を印刷する場合

ファイル  $\rightarrow$  レポート&QC  $\rightarrow$  LANC@T に保存で、レポートを LANC@T に保存する。

👗 LANC@T保存						- 🗆 ×
_U#~						-DICOM シリーズ情報 (SC)
しポート Guideline (1400:1120) Report			Full screen Image(44)           Decrease         IV           Decrease         IV           All         Sufface           Axial         Sagital           Coronal         Increase           All         Sufface           Sufface         Axial           Sufface         Axial			DDOM シリーズ特徴 (SO) Series description [eZDS[SC] Series Number IF 10のシリーズとして保存 Guideline, Standard VOI Report設定 MRI表元スライス 10 米 ~ 90 米 Fusion 50 米 Auto Two Tai設定 Lower : Upper - 5
<u>血流低下パターン - 脳表画像 (*縦)</u> [典型例/解説]なし [典型例/解説]あり		Г	<ul> <li>Selected slices</li> </ul>	C All slices	5	設定保存 LANC@TIC保存
レポートの向き で 横組	従横の	表記がない	ルボートには【レボートの向き】の	設定が反映さ	hます。	OK Cancel

1. LANC@T に保存されたレポートを選択して、LanCATview を起動する。

LANC@T										-	D ×
参照先: Local v	送信 転送	Patient	Stud	y <mark>S</mark> er	ries	Today Today:本[	Week Month 日の検査 〜	All			Ø
D	Name	Age	Sex	odalit		Study	Series		Apps	Win	
1 Demo Data	Demo Datas	65y	F	NM	Rest		eZIS[SC]				_
Demo Data	Demo Datas	65y	F	NM	Rest		eZIS[SC]			anCATviev	·
										71977-0	
<							>				
Frame		[0002,001	10] Tra	ansferS	yntaxl	JD D	1.2.840.10 A				
< >		[0008,000	.)8] Im	аgeТуре	э		ORIGINAL¥				
1/1	eZIS.	[0008,001	16] Ph	otomet	ricInte	rpretation	1.2.840.10				
Max:255	A COMMAND AND AND A COMMAND AND AND AND AND AND AND AND AND AND	[0008,001	18] SC	)P_Insta	nce_UI	D	1.2.392.20				
255		[0008,002	20] St	JdyDate	*		20010907				
		[0008,002	21] Se	riesDat	e Ж		20240924				
		[0008,002	23] Co	ntentD	ate		20240924				
		[0008,003	30] St	udyTime	e Ж		100455				
		[0008,003	31] Se	riesTim	ie		134051				
□ % <b>****</b>		[0008,003	32] Ac	quisitio	nTime	*					
	â 🖗 ă 🝈 ă 👼 📕	[0008,003	33] Co	ntentT	ime		134051				
37.35.75	a = a a a a = i i · ·	[0008,005	50] Ac	cession	Numbe	er 💥					
State and State		F0000.000	001 M.	Janaan N	s:		NR4 >				
		1.					-				
							Edit				
	1										

2. File → Print で印刷する。

2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

I	V Print					
	File Option He	elp				
	<u>P</u> rint					
I	Export E <u>x</u> it	emo Data		使用薬剤	ECD (ニューロライト)	
ľ	氏名	Demo Datas		解析条件	Setting2 / ECD2_SPM2	Refe
I	性別年齢	女性	65歳	NDB	女性のみ / 60-69歳	Me
I	検査日	2001/ 9/ 7		基準ファントム	none	
I	解析者			自施設ファントム	none	z-s
k	CDECT			0	100	75,000,000
Ì	SPECT			0	100	両側側
	SPECT R	<u>a</u> 4		0		両側側 Infer
	SPECT R	eis é	3 6	0		<b>両側側</b> Infer
	SPECT R	<u>6</u>	)	⊃ہ ایک		<b>両側側</b> Infer
	SPECT R	<u>6</u>	<b>)</b>	∘∟ •		両側側 Infer
	SPECT R					両偶側 Infer R Suspe
	SPECT R					兩側側 Infer R Suspe

JPEG 等を印刷する場合

1. ファイル → レポート&QC → ファイルに保存で、レポートをファイル(JPEG 等) として保存する。

Guideline (1400x1120)         1¥17           Report         I           Standard VOI (1400x1120)         I           Report         I           Decrease         I           Report1         I           Report2         I           OC         I           Report1         I           Increase         I           Report1         I           Neport2         I           OC         I		III screen Image(*#≇) Decrease IV SVA-A F All Surface Axial Sagittal Coronal Increase All Surface	保存 Z SVA-B		Series description eZIS(SC) Series Number マコンのシリーズとして保存 Guideline, Standard VOI Report[設定 MRI表示スライス 10 % ~ [90 %
Report         Image: Constraint of the second		Decrease IV SVA-A I All Surface Axial Sagittal Coronal Increase All Surface	Z SVA-B		Series Number マコンのシリーズとして保存 Guideline, Standard VOI Report設定 MRI表示スライス 10 % ~ 190 %
Standard VOI (1400x1120) Report Report Report1 Report2 Report1 Report2 Report1 Report2 Report1 Report2 Report		All Surface Axial Sagittal Coronal Increase All Surface			Guideline, Standard VOI Report設定 MRI表示スライス 10 % ~ 90 %
Report         Image: Constraint of the second		Surface Axial Sagittal Coronal Increase All Surface			↓ コンのシリーズとして保存 Guideline, Standard VOI Report設定 MRI表示スライス 10 % ~ 90 %
Decrease         Image: SVA-A         Image: SVA-B		Axial Sagittal Coronal Increase All Surface			Guideline, Standard VOI Report設定 MRI表示スライス <sup>10</sup> % ~ <sup>90</sup> %
Decrease		Sagittal Coronal Increase All Surface			Guideline, Standard VOI Report設定 MRI表示スライス 10 % ~ 90 %
Report2		Coronal Increase All Surface			MRI表示スライス 10 %~ 90 %
Report2		Increase All Surface		_	MRI表示スライス 10 %~ 90 %
Acrease Acport1 Report2 QC C Too Tailoree		All Surface			
Report1 Report2 QC Two Tail View		Surface			50
Report2		Junace	_	-	Fusion 50 %
QC		0.vial			
Two Tail View		Spaittal	2		- Auto Two Tail設定
	L	Coronal			
Papart1		Coronal	L		Lower: Upper -  b
Report?		Two Tail View			
00		All			
Auto Two Tail	L	Surface			
Report1	_	Axial			
Report?		Sagittal			
00		Coronal			
40	I_	Auto Two Tail			
疾患結果領域配折(S)/A) ▼ SVA-A ▼ S	VA-B	All	_	_	
グラフ(*横) ロ		Surface		-	
解説付き		Axial		-	
SPECT 7(*## SVA-A/D/A)		Sagittal		-	
	1	Coronal		-	
血流低下バターン - 脳表画像 (*縦)					
【典型例/解説】なし 一					
【典型例/解説】 あり 🛛 👘		<ul> <li>Selected slices</li> </ul>	C All slices	3	- 認定1未仔 - ノアイルノご未仔

2. 保存したレポート(JPEG 等)をダブルクリックして表示し、Windows の機能で表示し、印刷する。

Q15 eZIS\_viewer(v1.2.0)で report1 だけ印刷しても report2 も印刷される。

#### A15

1 枚目のレポートのみを DICOM-SC や JPEG 等で保存してレポートを印刷してください。

 ファイル → レポート&QC → ファイルに保存で、レポートをファイル (JPEG 等) として保存する。

IN レポート & QC Viewer 保存			ー ロ × 「DICOM シリーズ情報 (SC)
Guideline (1400x1120)         保存           Report         □           Standard VOI (1400x1120)         □           Report         □           Decrease         □           Peport1         □           Report2         □           OC         □           OC         □           Neport1         □           Report2         □           OC         □           OC         □           OC         □           Report1         □           Report2         □           OC         □           GC         □           GC	印刷     Full screen Image(*持)       Decrease     SVA-A       All     Surface       Avial     Coronal       Coronal     Surface       All     Sarittal       Coronal     Coronal       Surface     All       Surface     All       Surface     All       Surface     All       Sarittal     Coronal       Two Tail View     All       Surface     Axial       Surface     Axial       Coronal     Coronal       Surface     Axial       Sarittal     Coronal       Surface     Axial       Surface     Axial       Sarittal     Coronal       Surface     All       Surface     All       Surface     Axial       Sarittal     Coronal       Sarittal     Coronal		Series description [#ZESS] Series Number 「 1つのシリーズとして保存 MR球売スライス 10 % ~ [90 % Fusion 50 % Auto Two Tai順定 Lower : Upper - 1
[典型例/解説]なし 「 [典型例/解説]あり 「	C Selected slices	C All slices	設定保存 ファイルに保存
レポートの向き	そ記がないレポートには【レポートの向き】の	設定が反映されます。	OK Cancel

2. 保存したレポート(JPEG 等)をダブルクリックして表示し、Windows の機能 で表示し、印刷する。 3DSRT ニューロ FAQ

2022年4月~2025年5月分 2025年5月更新

### 3DSRT ニューロ (V1.0.6) FAQ

Q16	FineSRTの結果画面にスジ状の線が表示されることがある。	.32
		_
Q17	3DSRTview において、Overlay ブルダウンメニューから ROI の太さを変更する引	
	が出来ない。	.33



### Q16 FineSRT の結果画面にスジ状の線が表示されることがある。

(下図参照)

A16

V1.0.6 の不具合になります。最新の V1.0.7 で対応済みですのでバージョンアップをお願い致します。当社担当 MR までお問い合わせください。

2025 年 5 月更新

Q17 3DSRTview において、Overlay プルダウンメニューから ROI の太さを変更する事が 出来ない。

#### A17

3DSRTviewの不具合になります。コントロールパネルから太さを変更して下さい。



(変更できない: Overlay メニューから)

RT LANC@T版-3DSRTview ver-1.0.7.0				- 🗆 ×
<u>File Edit View Overlay H</u> elp				
			6 8 6 8 6	
P #50				
(A) (A) (A) (A) (A)	<b>b) (b)</b>			
100 100 A	a ka ka			
AN AN A	W WW WW			
	<b>) () ()</b>			
				#11
	id (iii) (iii)			
	6 66 66	🛞 😍	😍 😍 (	*
Overlay Display         Image Magnify           Image Magnify         XI(10x6)           Image Magnify         XI(10x6)	Scale Type Free  0 - 100 Overlay Color White	Select         Color Map(+)           ROI A         ROI G         Continuous ▼           ROI B         ROI H         Color Map(-)           ROI D         ROI J         Nesative ▼	ECD Template	Upper 110 Lower 0 Image Max 110.00 Image Min 0.00
Fine SRT R/L	Line Width ReDraw	ROIE TROIK ROIF ROIL	Config 04_安静定量(pixel) 💌	Hide Panel
Line Width	(変更可:コント	ロールパネルか	らから)	

### Amygo ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ

Q.18 Amygo ニューロでアミヴィッド画像を読み込むと特定の機器で "xy size<z size. Please check pixel size and slice thickness."のメッセージが表示され解析できない。35

2025 年 5 月更新

Q.18 Amygo ニューロでアミヴィッド画像を読み込むと特定の機器で "xy size<z size. Please check pixel size and slice thickness."のメッセージが表示され解析できない。 (図 1)

Error	$\times$
XY size < Z size. Please check pixel size and slice thickness.	
ОК	

(図1 エラーメッセージ)

A.18

Z 方向の視野が XY 方向の視野より大きいデータは、スライス厚の情報を間違って 認識している可能性があるため、解析に進めない仕様になっている為です。スライ ス厚が正しい場合は、LANC@T にデータを読み込む際にスライス数を減らして、xy の視野より z の視野の方が小さくなるように調整してください。

#### スライス数を減らす方法

処理機側で再度フレーム数を調整してデータを取り込んでください。

- ① エラーが出るデータをあらかじめ LANC@T から削除してください。
- ② 処理機側でフレーム数を減らしてから再度 LANC@T に取り込んでください。
- ③ Amygo ニューロを実行し現象を確認してください。

処理機でフレーム数の調整が行えない場合は、下記の方法を試してください。

- ① LANC@T からエラーが出るデータをあらかじめ削除してください。
- ② データを取り込む際に、フォルダ内の連続するファイル名の最初又は、最後の数フレームをフォルダ内から削除してLANC@Tに取り込んでください。
   (次ページ補足資料参照)
- ③ Amygo ニューロを実行し現象を確認してください。

(補足資料)

xy の視野=マトリックス×ピクセルサイズ(mm)、z の視野=フレーム数×スライス厚 (mm)を求める方法

● LANC@T のデータリスト画面と edit 画面から画像の情報を得る

LANC@T データリスト画面

アミクルーズ 🗸 🔪		送信	和达	atient Sludy	Series Today:	本日の検査				Ŷ		
D	Name	Age	Sex Modali	ty Study	Series	Date	Time	ImageID	Matrix	Frame	ImageType	:v.Da Edit
1 <mark>Demo</mark>	Demo	88y	M PT	Florbetapir	TEST	2019/09/12	11:20:42		168*168	83	RIGINAL¥PRIMA	R <mark>?</mark>
							_				1	
				Ma	atrix	Fr	am	e	Ι	ma		
				168	3*168		83	I	RIG	IN4		
edit <b>画</b> 面	<u> </u>		ţ	XY <b>ወ</b> ን	マトリックス	Z	, ס <b>כר</b>	ノーム数	ζ antHistor			
[0020,0010] StudyII						[0010,21	00] Addi 00] Patik	entComm	entristor	y	-	
0020,0011] Series	Number		4	ł		[0010.00	20] Patie	entsSize	unto			
0020,0013] Instand	cenlumber		]	0.00.00.00.00.00.00	<u></u>	[0010.00	30] Patie	entsWeigh	ıt			
.0020,0037] Image(	Prientation		1	¥U¥U¥O¥1¥	0	[0018.00	15] Body	/PartExam	ined		_	
.0020,4000] ImageC	Comments		C	Cl_rec_FOV3	300	[0018,00	50] Slice	eThicknes	s **		2	
.0028,0008] Numbe	rOfFrames					[0018,00	88					
.0028,0010] Rows			1	68		[0018,10	30]	Z	のスラ	ライス	厚	
.0028,0011] Colum	ns		1	68		[0018,11	40]			•		
0028,0030] Y_Pixe	I X		2	.03642		[0018.11	421 Radi	alPosition				
						· - / · ·	721 1000					
0028,0030] X_Pixe	1 ※		2	.03642		[0018,11	43] Scar	nArc 💥				

XY のピクセルサイズ

- ① 対象のデータを選択してからメイン画面の Matrix と Frame の欄の数 値をメモする。
- ② Edit 画面の[0028,0030]の X(Y)Pixel の数値をメモする。(ピクセルサイズ)
- ③ [0018,0050]の Slice Thickness(スライス厚)の数値をメモする、
- ④ マトリックス × ピクセルサイズから XY の視野を求める。
- ⑤ フレーム数 × スライス厚から Z の視野を求める
- ⑥ XY の視野 > Z の視野になるようにフレーム数を調整する。
- ⑦ 残ったフレームを LANCA@T にインポートする。
- ⑧ 解析できるか確認する。

# AMYclz ニューロ (V1.0.0,V1.0.1) FAQ

AMYclz **–––** FAQ

2022年4月~2025年5月分 2025年5月更新

Q.19 AMYclz ニューロのレポートが保存できない。

A.19

[現象]

● AMYclz ニューロ解析後、結果画面からレポートを保存しようとすると、「レポートの 保存に失敗しました」と表示され、保存できない。



この現象が発生した場合、ログファイルに以下のエラーが記録されているか確認してください。

[2024-xx-xx xx:xx:4xx.361] [ERROR] - System.ArgumentException: ターゲット配列の長さ が足りません。destIndex、長さ、および配列の最小値を確認してください。

※ログファイル場所(既定インストール先では): C:¥FRI¥LANC@Tprog¥AMYclz\_neuro¥logs

[原因]

AMYclz ニューロのレポート保存機能は患者名(PatientsName)を使用しています。このフィール ドには半角英数字で 64 文字までの制限(※)があり、この長さを超えるとエラーが発生し、レポ ートが保存できなくなります。(※「漢字」や「かな」のような全角文字を使用すると、64 文字未満 でも文字数制限を超える場合があります。) [対処法]

LANC@T 上で該当の患者を選択し、患者名(PatientsName)のフィールドについて、Edit ボタンを 押して、半角英数字で 64 文字以内に収まるように編集し、Save してください。

ただし、患者名を編集する前に、一度だけ LANC@T の設定を変更する必要があります。以下の 手順を実施してください。

【LANC@T の設定について】

注意①:LANC@Tを終了した状態で行ってください。

注意②:この手順(以下の1)と2))は一度だけ実施してください。

1) LANC@T のインストール先フォルダ(既定のインストール先:C:¥FRI¥LANC@T)を開き、 LANCAT\_Setup.xmlをメモ帳等で開きます。



#### (図 LANCAT\_Setup.xml)

2) 15 行目の<UIDLevel>1</UIDLevel>の1を3に書き換え、上書き保存します。

※UID レベルを1から3に変更することで、名前を変更しても同じ UID で保存されます。

AMYclz **\_\_** FAQ

2022年4月~2025年5月分 2025年5月更新

#### (LANC@T 上での患者名の編集)

2) Edit 画面の「PatientsName」のフィールドを選択して Edit ボタンを押下してください。

[0008,0050] AccessionNumber ※	
[0008,0060] Modality Ж	PT
[0008,0090] ReferringPhysiciansName	
[0008,1030] StudyDescription ※	PET^36_Florbetapir_impact (Adult)
[0008,103E] SeriesDescription ※	Impact_0-1200 (AC)
[0008,1050] PerformingPhysiciansName	
[0008,1060] NameOfPhysiciansReadingStudy	
[0008,1070] OperatorsName	
[0008,1080] AdmittingDiagnosesDescription	
[0010,0010] PatientsName ※	010203040506070809101112131415161718192021222324252627282930313233
[0010,0020] PatientsID ※	AMY_sample
[0010,0030] BirthDate ※	19701122
[0010,0032] PatientsBirthTime	
[0010,0040] PatientsSex ※	M
[0010,1000] OtherPatientIDs	
[0010,1001] OtherPatientNames	
[0010,1010] PatientsAge ※	048Y
Footo at col Eur. L.O.	
	Edit

- (図 LANC@T Edit 画面)
- 3) 患者名を変更してください。

[0008,0050] AccessionNumber ※	
[0008,0060] Modality ※	PT
[0008,0090] ReferringPhysiciansName	
[0008,1030] StudyDescription ※	PET^36_Florbetapir_impact (Adult)
[0008,103E] SeriesDescription ※	Impact_0-1200 (AC)
[0008,1050] PerformingPhysiciansName	
[0008,1060] NameOfPhysiciansReadingStudy	
[0008,1070] OperatorsName	
[0008,1080] AdmittingDiagnosesDescription	
[0010,0010] PatientsName ※	PDR
[0010,0020] PatientsID ※	AMY_sample
[0010,0030] BirthDate ※	19701122
[0010,0032] PatientsBirthTime	
[0010,0040] PatientsSex ※	M
[0010,1000] OtherPatientIDs	
[0010,1001] OtherPatientNames	
[0010,1010] PatientsAge ※	048Y
Tooto at col Eur. 1 o	1
	Undo Save

(図 LANC@T Edit→Save 画面)

変更後、再度解析を行ってください。

# カーディオレポ (V1.2.0) FAQ

Q20	) 入力データの短軸像でスライス枚数が、Rest と Stress で異なる場合に、	
	cardioMUSk 機能 <sup>※</sup> でフィルター処理を行うと「不正な浮動小数点演算命令」のエラー	•
	が発生する場合がある。	12

2022年4月~2025年5月分

2025年5月更新

Q20 入力データの短軸像でスライス枚数が、Rest と Stress で異なる場合に、 cardioMUSk 機能<sup>※</sup>でフィルター処理を行うと「不正な浮動小数点演算命令」のエラーが 発生する場合がある。

A20

Rest 画像のフィルター処理における、メモリへの不正なアクセス等のバグです。

≪注意≫

- Rest と Stress の枚数が異なっていても、上記エラーが発生しない場合がありますが、内部的な 処理が完了せず問題が発生する場合があります。
- cardioMUSk 機能を使用していない場合、問題は発生しません。
- スライス枚数が Rest と Stress で同じ場合、cardioMUSk 機能は、正しく処理されます。
- 処理機のワークフロー内で cardioMUSk の処理を行った場合、問題は発生しません。

以下のいずれかの方法で対応が可能です。

- 方法 1)処理機で再構成する際にスライス枚数が Rest と Stress で同じになるように 再処理してください。
- 方法 2)PDR 製汎用画像処理プログラム DRIP 等を使用して、対象データのスライス 枚数を調整してください。

DRIP のプログラムは日本放射線技術学会の HP からダウンロードできます。

(<u>http://nm.jsrt.or.jp/blog.html</u>)

使用法については当社担当 MR にお問い合わせください。

※「cardioMUSk 機能」とは、画像上の心外集積を除去する等の目的で実施する、マスク処 理、平滑化処理のことです。 smartMIBG ハート FAQ

2022年4月~2025年5月分 2025年5月更新

# smartMIBG ハート (V3.1.0,V3.1.1) FAQ

Q.21	特定の患者で smartMIBG-HF を起動しても自動で H/M が反映されない。 44
Q.22	「モジュール違反」のエラーが発生し解析できないことがある。46
Q.23	smartMIBG-HF においてある条件下で、H/M 補正機能をオフにしているにもかかわら ず、起動時に補正後の値が表示される不具合が発生します

smartMIBG ハート FAQ

2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

Q.21 特定の患者で smartMIBG-HF を起動しても自動で H/M が反映されない。 また%/5years が表示されない。

A.21

後期像の HMR が 3.05~3.09 の場合に限り smartMIBG-HF に値が渡らない現象が発生します。ご不便をお掛けしますが、下記の方法で解析を行って下さい。

两院名 PDR					
患者ID MIBG	年齢 81	検査時刻(Early)	09:32 🗆	メント	
患者名 Sample 检本口 2011 /10 /11	MERI Camala	検査時刻(Delayed)	12:09 156.27(i)		
1 ( ) 1 2011/10/11	1±,6/] Female	Delay Interval	100.27(min)		2000000
Early		221 /381(58%) 0	Delayed		143 /143(1008)
		_			
	a 2				
	2.5				
1 20					
1 1 1 1 1 1 1 1					
				Carlo and the second	
		0 (010)			0 (000)
7.2		1			1
心臓ROIサイズ Target Shift	(0, 0) Rotate	Early Heart 134.3 c/n	Delayed Heart 85.5 c/	Washout Rate	
¥12 11 ± pixel C Delayed	스	Mediastinum 44.2 c/p	H/M 307	Washout Rate(BC+DC+) 3	6.6 % )
(26.4mm) <u> </u>	Cate	標準ME	標準ME	BC:バックグラウンド補正、DC	減衰補正
0 始至 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		H/M 3.94	1H/M 9.97		
			٢		
		-De la	m. al		
		Dela	yea		
		Lleev	+	OFF	- 1-
		near	nt i i	C.CO	с/р
		h 4 m m l	laatinu	070	-1-
		IVIEQ	asunu	111727.9	υρ
		LI /M		2 07	
				3.07	
		檀進N	٩F		
		197K-1-1			
				0.07	

1) smartMIBG 解析を行い H/M を算出する。

(図1 Delay の H/M 値)

2) smartMIBG-HF を起動する

File Option	Help				
<u>5-yea</u>	ar m	ortali	<u>ty risk </u>	<u>for hear</u>	<u>t failure</u>
HpName	PDR				
ID	MIBG	i		Study Date	2011/10/11 ~
Name	Samp	ole			
Gender		○ Male	• Female		
NYHA Clas	SS	O <b>1-2</b>	O <b>3</b> -4		- correct HMR
HMR	≦1.1		3.1≦	<11 <sup>∨</sup>	LMEGP ~
Age	≦40		91≦	1.2 × 1.3	↓ Standard LE
LVEF(%)	≦20		70≦	1.4 ~ 1.5	corrected value x.x
Mortality(%	5)			1.6 1.7	•
90			Pat	1.8 ien 1.9	
80-				<sup>HA</sup> 2.1	
				2.3	
				2.5 2.6	
				2.7 2.8	
				2.9 3.0	
				3.1≤	

(図 2 smartMIBG-HF の起動画面)

HMR の欄が smartMIBG で求めた値が引き継がれなく空欄になっています。リストボックスから適切な HMR を選択してください。(今回の場合は 3.1≦)

2022 年 4 月~2025 年 5 月分

2025 年 5 月更新

Q.22 「モジュール違反」のエラーが発生し解析できないことがある。

A22

対応方法

LANC@T から匿名化機能を On(実際には匿名化しない)にしてエクスポートして、インポートしなおしてください。

手順

- 1) エラーが発生するデータを LANC@T 上で選択して、エクスポートアイコンをク リックします。
- 2) 「エクスポート時に匿名化する」にチェックを入れ、項目設定ボタンを押し、す べてのチェックを外して OK ボタンを押してください。

エクスポート設定	項目設定
エクスポート設定 図 エクスポート時に匿名化する 項目設定	
ロログファイルを作成する	PatientsName □文字列
☑ エクスボート時にスペースをアンターバーに変換する デフォルトのエクスポート先 C.¥export …	□ +連番
ビ エクスポートルールを使用する フォルダ	PatientsID □文字列 □ + 連番
ファイル名 \$pname\$	PatientsSex 🗌 PatientsSexを"O"に変換
命名ルール(下記の情報が使用できます) PatientsName : \$ptname\$ PatientsD : \$ptid\$ PatientsSex : \$ptid\$	PatientsAge 🗌 PatientsAgeを削除
PatientsAge \$ptage\$ StudyDescription \$studydesc\$ StudyDate \$studydats\$ StudyTime \$studytime\$	BirthDate 🗌 BirthDateを削除
SeriesDescription : \$seriesdesc\$ SeriesDate : \$seriesdate\$ SeriesTime : \$seriestime\$ Modality : \$modality\$	* 同一患者のデータであっても、Studyが異なる場合は新しい連番が付加され、 別の文字列で匿名化されます
OK キャンセル	ОК <i>キャンセル</i>

- 3) エクスポート先やエクスポートルールを適宜変更して、データをエクスポート してください。
- 4) エクスポートしたデータを LANC@T にドラッグ&ドロップして取り込んでください。

2025 年 5 月更新

Q.23 smartMIBG-HF においてある条件下で、H/M 補正機能をオフにしているにもかかわらず、起動時に補正後の値が表示される不具合が発生する

A23

[現象]

ある条件下で、H/M 補正機能をオフにしているにもかかわらず、起動時に補正後の値が 表示される不具合が発生します。

以下の 2 つの条件を満たした場合、補正機能をオフにしても補正後の値が表示されま す。

条件1) 設定画面に補正係数が入力されている。

Setting	
Hospital Name	
□ correct HMR	
• Phantom	LE ~
<ul> <li>Collimator</li> </ul>	LEHR ~
LE LMEGP	
condition LE	coefficient 0.4
	Save Cancel

(図 smartMIBG-HF 設定画面)

条件2) smartMIBG で算出された後期像の H/M を、設定画面で選択された補正係数で補正した際に、1.1 未満、または 3.1 より大きくなる場合。

(例)



(図 smrtMIBG 後期像の H/M 比算出)

smartMIBG で求めた後期像の H/M(補正なし)の値を小数点第 2 位で四捨五入し、smartMIBG-HF に反映させます。(例:2.98→3.0)



(図 smartMIBG-HF)

Setting	
Hospital Name	
□ correct HMR	
Phantom	TEST
<ul> <li>Collimator</li> </ul>	LEHR
TEST TEST2	
condition TEST	coefficient 0.4
	Save Cancel

(図 smartMIBG-HF 設定)

② ソフトに実装されている補正式は

「補正後の値 = (H/M - 1) × (0.55 / 補正係数) + 1」となります。

例:H/M = 2.98、補正係数 = 0.4 の場合

 $(2.98 - 1) \times (0.55 / 0.4) + 1 = 3.72$ 

これは範囲の上限である 3.1 を超えてしまうため、補正しても 3.1 を超えない 2.4 にセット されます。

補正のチェックが付いていないにもかかわらず、補正された値がセットされてしまいま す。

2022年4月~2025年5月分

2025年5月更新



補正のチェックは付いていないが補正された値がセットされてしまう

「対処方法」

● 補正機能をオンにして初めから解析を行ってください。

LANC@T FAQ

2022年4月~2025年5月分 2025年5月更新

# (New) LANC@T (V2.9.x.x) FAQ

Q24	PDRパッケージに付属される LANC@T v2.9.1.1, および医療機器プログラムが	
۷	Windows 7 以下の PC で動作しない。	52
Q25 -	ボーンナビ BSI V2.2.0 ヘバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エクス: ート機能" を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。	ポ 53
Q26	バージョンアップ後、非 DICOM データが取り込めなくなった。	55
Q27	LANC@T V2.9.3 で DICOM 通信が行えない。	56

2022 年 4 月~2025 年 5 月分

2025年5月更新

Q24 PDRパッケージに付属される LANC@T v2.9.1.1, および医療機器プログラムが Windows 7 以下の PC で動作しない。

A.24

最新の医療機器プログラム(「ボーンナビ BSI 2.2.0」等)及び LANC@T(V2.9.1.1)の推 奨 OS は Windows10 と 11 になります。

LANC@T(V2.9.1.1)は、"Microsoft .NET Framework 4"(以下.NET4)を利用しています が、Windows10, 11 では、標準で".NET 4"がインストールされ、有効化されています。 ただし、この機能が有効化されていない場合等は問題が発生しますので、ご施設の PC 環境をご確認ください。なお、動作保証対象外の環境ですが、Windows7 以下の旧 OS 上で動作させる場合には、".NET4"のインストールが必要となります。具体的な方 法につきましては、Microsoft の情報 WEB ページもしくは当社担当 MR までお問い合 わせください。

Microsoft の情報 WEB ページ https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17718

2022年4月~2025年5月分

2025年5月更新

Q25 ボーンナビ BSI V2.2.0 ヘバージョンアップ後に解析レポートを LANC@T の "エク スポート機能" を使用して、フォルダ経由で処理機にインポートできなくなった。

A.25

LANC@T から DICOM データをエクスポートした際に、DICOM データの保存フォルダ/フ ァイル名に「空白」が含まれる場合に共有フォルダ経由でインポートできない処理機 があります (本資料の「ボーンナビ BSI FAQ」と同じ現象についての説明です)。

#### <u>方法1-3のいずれかで対応をお願いします。</u>

方法1) LANC@T のエクスポートルールを使用する場合、フォルダ名/ファイル名に は**\$ptid\$等の空白のない情報**を使用してください。

ロエクスポート時に匿	名化する項目設定
□ ログファイルを作成す	する
デフォルトのエクスポート	≻先
D:¥temp¥export	
フォルタ マテイルタ 象ptid& 命名ルール(下記の情 PatientsName PatientsD	「報が使用できます) : \$ptname\$ : \$ptname\$
PatientsSex PatientsAge StudyDescription StudyDate StudyTime SeriesDescription	oppend StrageS StudydecS StudydecS StudytreS SeriesdecS SeriesdecS SeriesdecS

2022年4月~2025年5月分

2025年5月更新

- 方法2) エクスポート時もしくはエクスポート後に、保存フォルダ名/ファイル名から 空白を削除して下さい。
- 方法3) 共有フォルダを介さず直接送信する方法(DICOM 通信)をご検討ください。
- ※この現象に対応するため、空白をアンダーバー「\_」に変換する機能を追加した対応版 LANC@T を ご用意しております。当社担当 MR までお問い合わせください。

Q26 バージョンアップ後、非 DICOM データが取り込めなくなった。

A.26

本現象は、LANC@T (V 2.9.1.0 及び V2.9.1.1)において、DICOM 形式とは異なる 非 DICOM (non-DICOM) の一部形式※のデータを取り込めないという問題です。以下 のようなエラーメッセージが表示され、LANC@T に取り込むことができません。

Land	atconverter X
C:	fsampledata¥test
は	読み込めません

DICOM 形式のデータをご利用の施設では、この現象は発生しません。

なお、LANC@T (V 2.9.1.0 及び V2.9.1.1)に含まれている、非 DICOM データの入出力を行 うプログラム(FileIO.dll)が原因と判明しており、この問題に対応した修正プログラムを 用意しております。問題が発生する場合は、当社担当 MR までお問い合わせください。

※本現象が発生する核医学画像処理機についての情報は、担当 MR までお問い合わせください。

Q27 LANC@T V2.9.3 で DICOM 通信が行えない。 (LANC@TService が正しく登録できない)

A27

「LANCAT サービス登録.bat」の内容に不備があった為、正しく登録が行えません。ご不 便をお掛けしますが、以下の方法1又は2のいずれかで対応をお願いします。

方法1)「LANCAT サービス登録.bat」の内容を書き換える方法。

- LANC@T のインストール先(デフォルトでは C:¥FRI¥LANC@T)にある 「LANCAT サービス登録.bat」をメモ帳等で開きます。
- 2) 2 行目の 「H:¥work¥Program¥ProgramCS¥LANC@T¥Source\_net4¥EAGLE¥bin¥Releas e¥LANC@TService.exe」の部分

下図赤枠を、実際の LANC@TService.exe がある場所に書き換え、上書き保存します。



3) 「LANCAT サービス登録.bat」を右クリックして「管理者として実行」し、PC を 再起動してください。

方法 2) 旧バージョンの「LANCAT サービス登録.bat」を使用する方法 手順

> 1) 旧バージョンの LANC@T(v2.9.2.1 以前)に添付されている「LANCAT サービス登録.bat」をコピーし、インストール先(デフォルトでは C:¥FRI¥LANC@T)に 上書きしてご使用ください。

### (New) 脆弱性に関する情報

(New)Info1	LANC@T で使用している OSS(オープンソ	ースソフトウェア)DCMTK(3.6.0)の
脆弱性に	-関する情報	
Info2 Micros	oft に関する重要なセキュリティ情報	

#### 注意事項

- 本文書の情報は発行時点のものであり、セキュリティ問題に関する情報は変化します。最新の情報を定期的にご確認ください。
- 本文書はセキュリティ情報の提供を目的としたものであり、法律上の責任を負うものではありません。お客様が独自に行なった(あるいは行なわなかった)セキュリティ対応その他のご行為の結果につきまして、当社では責任を負いかねます。
- 本資料から他サイトのページへのリンクアドレスは情報発信時のものです。他サイトでの変 更などを発見した場合には、リンク切れ等にならないように努力はいたしますが、永続的に リンク先を保証するものではありません。

2022年4月~2025年5月分

2025 年 5 月更新

### (New)Info1 LANC@T で使用している OSS(オープンソースソフトウェア) DCMTK(3.6.0)の脆弱性に関する情報

(2025年5月更新)

#### 概要

本お知らせは、当社の医療機器プログラム付属品「LANC@T」で使用している OSS「DCMTK (3.6.0)」に関する脆弱性情報と対策についてご案内するものです。 <u>DCMTK の情報入手先</u>

#### 対象製品

以下の製品が本脆弱性の影響対象となる可能性があります。

● 医療機器プログラム付属品 LANC@T(v2.8.2 ~ 2.9.4)

対応状況	詳細情報
対応済み(LANC@T	NULL ポインタデリファレンスやパストラバ
v2.9.3 以降)	ーサルの脆弱性。適切な修正が施されて
	おり、最新バージョンでは影響なし。
対象外	LANC@T では該当機能を使っていない。
対象外	LANC@T では該当機能を使っていない。
下記の影響と対策を	_
確認してください	
	対応状況 対応済み(LANC@T v2.9.3 以降) 対象外 対象外 下記の影響と対策を 確認してください

### 確認された脆弱性と対応状況

### 「その他の脆弱性」に関する影響と対策

現時点で本脆弱性を利用した被害は確認されておりませんが、より安全にご利用いただく ため、以下の対策をお願いいたします。

#### 基本的な対策

1. DICOM Q/R 機能の確認

LANC@T の DICOM Q/R 機能を有効にしていない場合、本脆弱性の影響はありません。初期設定では、この機能は無効化されています。DICOM Q/R 機能が不要な場合は、当該機能を無効にしてください<sup>\*1、\*2</sup>。

2. 最新バージョンへの更新

可能な場合は、常に最新のバージョンをご使用ください。バージョンアップにより 既知の脆弱性が解決されることがあります。

#### DICOM Q/R 機能を使用する場合の追加対策

Q/R機能を有効にして使用する必要がある場合は、以下の追加対策を推奨します。

1. ネットワークアクセス制限

ファイアウォールを設定し、信頼できる機器・IPアドレスからのアクセスのみを許可してください。不要な外部通信を遮断する設定を行ってください。

2. 運用管理の強化

業務終了後には PC をシャットダウンすることを徹底してください。

※1 Q/R 機能の無効化状態の確認方法

タスクマネージャーの「サービス」タブを選択し、「LANC@TService」が登録され ていないこと、もしくは「状態」の欄が「停止」になっていることを確認してください。 ※2 Q/R 機能の無効化方法

LANC@T のインストール先 (デフォルトのインストール先 C:¥FRI¥LANC@T)にあ る[LANCAT サービス解除.bat]を右クリックして[管理者として実行]から実行して PC を再起動してください。

### 最新情報の入手先

最新の脆弱性情報については、以下のデータベースでご確認いただけます Japan Vulnerability Notes Database (JVN): <u>https://jvndb.jvn.jp/</u>

Info2 Microsoft に関する重要なセキュリティ情報

- 1. 当社医療機器プログラムにおける Microsoft 製品の使用状況 以下の製品が対象となります:
  - smartMIBG ハート(全バージョン)
  - eZIS ニューロ(全バージョン)
  - AMYclz ニューロ(全バージョン)
  - 医療機器プログラム付属品 LANC@T(全バージョン)
- 動作環境に関する注意事項 上記製品は Microsoft .NET Framework を利用しています。セキュリティ対策のため、以下の点にご注意ください:
  - 製品を使用する PC には、Microsoft .NET Framework がインストールされている必要があります。
  - 当社プログラムは開発時に.NET Framework V4.x を使用していますが、セキュリティ上の脆弱性は実際に製品がインストールされる PC の.NET Framework のバージョンに依存します。
  - Windows Update を定期的に適用することを推奨します。
- ✓ これにより、Microsoft .NET Framework を含む最新のセキュリティパッチが適用され ます。
- ✓ 特に重要なセキュリティ更新プログラムは速やかに適用してください。
- 3. 脆弱性情報の確認方法 最新の脆弱性情報については、以下のデータベースでご確認ください:
- JVN iPedia 脆弱性対策情報データベース
- Microsoft 社セキュリティ更新プログラムガイド